

訓練の積み重ねが
いざという時に力を発揮します

今年の訓練は

3月9日(日)10時00分 火災発生

全員で避難開始を！

- ★天ぷら油の引火を消火します。
- ★起震車も来ます。是非体験してみよう。
- ★参加者全員で避難食を試食してみよう。



第4回自主防災会役員会で、防火・防災訓練の詳細について協議をし、タイムスケジュールや役割分担について確認をしました。当日の避難誘導や避難食の準備は役員さんが担当しますので、是非たくさんの方のご参加をお待ちしています。なお、避難する際は、玄関扉の表に昨年配布しました「安否確認プレート」を貼りだしてから一階北側駐車場に集合してください。

その後、消火訓練、起震車体験の後、避難食を試食して頂いてから、解散となります。

ご参加よろしくお願ひします。



タイムスケジュールは、おおまか以下のとおりです

- 9：30 防災会役員打ち合わせ（集会室）
- 10：00 火災発生・避難開始
- 10：20 消火訓練
- 10：50 起震車体験
- 11：30 避難食試食・終了



う～ん、難しい

窓ガラス飛散防止フィルム貼りに初体験

12月16日に、窓ガラス飛散防止フィルム貼り実践教室を開催しました。参加者が、あまり多すぎても指導がしにくいということで、一定の参加制限をさせていただいたこともあって12名の参加で取り組みました。

最初は、ガラスの汚れ取りからフィルムのカット、貼り付けてからの空気抜きなどと順番に進めての練習。いざ、本番とばかりに部屋から外して運び込んできた80センチ×160センチの窓ガラスへの貼り付けは相当に苦勞しました。ベランダ側の窓ガラスの大きさだと4人がかりでやっとできるとなれば、どうしてもお互いの助け合いが必要となります。自主防災会で「フィルム貼ります隊」でも組織して、希望者・独居の方などを中心に希望者の所に出向いていくことができるようになるのか。これからの議論と訓練次第です。当面は、「食器棚の扉など小さいところから始めないと」との感想が出されています。

なお、第4回役員会では、ゴムヘラ・霧吹き・ガラススクイジー・金定規・メジャー・ブルーシート・カッター下敷きなどの貼り付け七つ道具を一式購入して集会室に常備しておき、必要な方に貸し出しをすることとしました。また、家具転倒防止については、転倒防止の取り組み業者の情報を収集提供するとともに、家具転倒防止グッズについては、リストを作成の上、注文を取ることにします。



フィルムの裏紙の剥がし方にもコツが



ヘラの使い方は



小さな模型で、まず練習



これだけ大きいとフィルム裏紙剥がしも大変です



さあ、いよいよ貼り付けを

飛散防止フィルムの貼り方（マルニ・防災アドバイザー提供）

【道具】

ゴムヘラ・霧吹き・ガラススクイジー・金定規・メジャー・ペンカッターナイフ（薄刃）、ハサミ・セロテープ・ブルーシート・カッター下敷き・バスタオル・バケツ・台所用洗剤・キッチンペーパーなど

【手順】

- ①作業に適した天候 風がない日中。夕方は虫が出やすいため不可。
 - ②複数作業 2～3名で作業すると効率がよい。
 - ③環境準備 窓ガラスを外さない場合は、カーテンやブラインドなどは外すこと。サッシの足元はブルーシート・バスタオルで水対策する。
 - ④作業準備 水を入れた霧吹きに洗剤一滴加える（振って泡立たない程度の濃度）
※濃縮・コンパクト洗剤は水で薄めて一滴加える。
 - ⑤フィルムカット ガラス内面サイズから巾・高さを5ミリ～1センチ小さくカットする。
※カットしたフィルムはガラスに当ててサイズ確認する。
 - ⑥ガラス清掃 ④のスプレー液を吹き付けガラススクイジーで汚れを取る。
※スクイジーを使う度にキッチンペーパーで汚れをとる。
※裏表とも清掃する。頑固な汚れはカッターで削ぐ。
 - ⑦フィルム準備 上部の両端の両面にセロテープを貼って裏紙をゆっくり剥がす。フィルム裏面にスプレー液をたっぷり吹き付ける。
※フィルムを扱う前に手をスプレー液で濡らす。
 - ⑧貼り付け ガラス面にもスプレー液をたっぷり吹き、フィルムを貼る。
 - ⑨水・エア抜き フィルム表面にスプレーしてゴムヘラで水・空気抜きをする。
※中心部を上から下に抜き、内から外へ左右順番に上から抜く。
 - ⑩仕上げ 再度スプレーして中心部から放射状に水抜きを行う。
フィルム外周の水分をペーパーで拭いて乾燥（1～3日）させて終了。
- ※オーバーラン ガラススクイジー・ゴムヘラを使う際は一回目のヘラ跡に二回目を2割くらい重ねて仕上げる。

基本的に「網入りガラス」や「強化ガラス」でのフィルム貼りは必要ありません。

第三回昭和小学地域防災訓練「あそぼうさい」 400人がいろんな体験

1月13日の第三回昭和小学地域防災訓練「あそぼうさい」は、総合学習の一環として参加した五年生と校区内の各町内会などから400人近くの参加で開催されました。私たちの住むサーパス知寄町Iからは20名の参加で今までで最も多い参加となりました。

また、自主防災会給食給水班から林班長と北村さんが炊き出し班として参加され、おいしいおにぎりや豚汁を参加者に振る舞われていました。

今年は、4回の打合会を踏まえての準備で、随分と盛りだくさんのメニューとなりました。防災クイズ大会に始まったメニューは、はしご車への試乗体験・防水訓練・震災写真パネル展示・伝言ダイヤル体験・炊き出し訓練・5年生による防災プロジェクト発表・怪我の応急処置手当法・津波実験装置体験・防災ずきん製作実演コーナー・下知地区の浸水歴史パネル作成・家屋の無料耐震診断・防災迷路・起震車体験・救助犬を使った被災者発見・防災倉庫の備品展示・防災グッズの展示・販売・耐震性非常用貯水槽活用訓練・消化器の使い方・救命救助（AEDを含む）・液化化実験・家具転倒防止コーナー・学校内の海拔表示・下知南地区津波防災検討会活動紹介などと全てを回りきれないほどでした。地域に根付こうとしている「あそぼうさい」ですが、来年もまた、地域ぐるみで、訓練を通じた交流を深めましょう。



体育館の中にも様々なコーナーが



参加者は町内会毎に集合

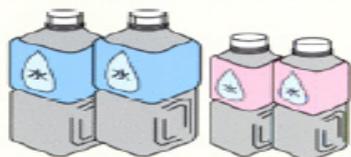
一口メモ(高知県「南海地震に備えちょき」より)

■備蓄品(避難生活に備えて家に蓄えておくもの)

地震が起きた直後は、水、食料、日常生活用品もすぐには入手できません。救援活動が受けられるまでの間の水や食料などを各家庭で蓄えておく必要があります。また、津波の浸水想定区域の場合は、家に戻ることができなくなりますので、避難場所に食料などの備蓄をしておく必要があります。**3日以上分の備蓄は必要!**

●飲料水

1人1日3リットル分の水は飲料用に必要であると言われてています。



●その他

粉ミルク、紙オムツなどそれぞれの家庭の事情から必要なもの

●食料

水道・ガス・電気が使えない状態が長く続く場合がありますので、次の基準で選んで保存しておきましょう。

- ①常温で長期保存ができる。②調理が不要。
- ③かさばらず備蓄スペースを節約できる。
- ④カロリー、栄養価が十分。⑤高齢者・幼児用の食料としても適する。

